

令和5年度 第3回 河輪小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年3月5日（火） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 河輪小学校 1階会議室
- 3 出席委員 鈴木大介、渋谷德行、太田尚吾、藤田正治、藤田沙奈江、間宮年弘
袴田伯領、中村健二、
- 4 欠席委員 長谷川豪
- 5 オブザーバー 飯田一明（南陽協働センター所長）
- 6 学 校 太田賀子（校長）、和久田仁（教頭）、櫻井伸夫（教務主任）
鈴木江利子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 鈴木江利子
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 学校運営協議会の自己評価について
- (3) 令和6年度学校運営の基本方針について
- (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

12 会議記録

司会の間宮委員から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ No.13 は児童と保護者のギャップを感じる。低学年から高学年までの年齢差があるが、親とのコミュニケーションによって将来を考える時間をもつと良い。将棋の藤井颯太や野球の大谷翔平のように堅い決意をする前段階として低学年向けのアンケートも良いと思う。（渋谷委員）
- ・ 1～3年生は判断できるのか、教員がどのように投げかけているか、保護者は本音なのか。教員は努力していると思う。No.13の児童と保護者のギャップについては、保護者が心配しているからだと思う。朝の登校時に見守りをしているが、子供達の元気な挨拶でこちらがパワーをもらっている。（太田委員）
- ・ 児童と保護者のギャップはNo.11、12、13、15で感じられるが、保護者は日常生活から感じていることから答えていると思う。No.15で子供は命の大切さを分かっていると思う。学校と家庭という場面の違いがあると思うが、子供達は授業で生き生きとしている。（藤田正治委員）
- ・ No.4、5、6は、「そう思う」が増えるといい。、時間のゆとり、心のゆとりが人を優しくできる

と思う。No.1はアンケートの質問の仕方が気になる。「～が身につく」という表現はどうか。

(袴田委員)

- ・学校では、単元テスト、県の学調の実施で学力の定着を確認している。教師の授業力を上げていくことが大切だと考えている。(校長)
- ・保護者として述べたいと思う。アンケートのほとんどは母親が答えている。父親だと結果が違いそうな感じがする。父親の方が客観的にみているように思う。No.14、15の「いじめ」については子供が言っている言葉に耳を傾けて行きたいと思う。(中村委員)
- ・No.14、15「何かあったら言ってきて。」と投げかけても言えない子もいると思う。浜松市の「市民の声」のようにいろいろな方法を検討すると良いと思う。(飯田オブザーバー)
- ・紙面とタブレットで対応している。(校長)
- ・親の思い、子供の思い、教員も。人間関係形成の時代、人を思いやる、感謝する気持ちが大切。No.6、7、8に関わると思う。生活習慣は家庭がサポートすること。No.13は教員が努力していると思う。(藤田沙奈江委員)
- ・キャリア教育では「解決する力」が重要だと思う。新しいものが増えているので、それまでに学んだことで全てをカバーできるわけではない。忙しさにかまけて対応できるものでもない。分からなければ聞けば良い。これが「関わる力」だと思う。幼稚園の例のように、幼児に解決の仕方を考えさせ、お膳立てしすぎず、正解がないような場面設定をするのも良いと思う。「森を見て木を見ない」という言葉がある。木の1本1本を見ることも大切で、1人1人を大切にして、No.4の「そう思わない」を絶対0にするという来年度の目標、取組を願う。(間宮委員)
- ・良いところは伸ばし、マイナス面にも目を向ける。児童の内面にアプローチすることは難しいので、来年度は「Hyper-QU」を実施し、専門家のレクチャーを受けて手立てを講じていく。(校長)
- ・実社会と学校が同じようになっていく。科学的な方法を取り入れたり、地域としてもできることは協力していきたいと思う。(会長)

(2) 議長長の指示により、校長から、別紙資料に基づき、学校運営協議会の自己評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

項目1～3について

- ・さくら連絡網で便りがよく見られるので、学校は発信していると思う。(藤田沙奈江委員)
- ・回覧板でよく見たと思うが、今年はあまり見かけないように思う。地域への情報発信の仕方を検討できると良い。(間宮委員)
- ・協働センターの「センターだより」のコーナーを利用したらどうか。(飯田オブザーバー)

項目4

- ・交通安全に目を向けていきたい。学区児童の事故については、十何年か前の12月の河輪小児童の死亡事故を知っている保護者が少なくなっている。本年度は隣の学区で児童死亡事故が起きているので、交通安全について意識を高めたい。(中村委員)
- ・登校時の交通指導をしているが、自動車の猛スピードに冷や冷やする。特に下校してから出掛ける子供達に事故の心配がある。必ず事故ゼロで。(太田委員)
- ・交番に子供の登下校の見守りを依頼してある。(会長)

- ・白バイや交通指導員の方が登校時に見えてくれると自動車が安全に走行する。(藤田沙奈江委員)
- ・近隣の小学生の死亡事故はいたましい事故になってしまった。「これで良い。」はないので様々な取組を検討したい。(間宮委員)
- ・来年度の目標に交通安全、交通事故防止を強調したい。「交通安全リーダーと語る会」を活用するのも良い。(会長)
- ・学校と自治会、子供達の声を取りあげ、安全な状況にしていきたい。この取組が子供達の「解決する力」につながるのではないかと。(藤田正治委員)

(3) 令和6年度学校運営の基本方針について(資料参照)

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき学校運営の基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・砂丘小との交流がオンラインや対面で実施されたようだが、今後も継続してほしい。(中村委員)
 - ・砂丘小とのオンライン授業は双方にプラスとなる。他校を知るだけでなくそれぞれの良さも見つける良い機会だと思う。東陽中とのピアサポートも期待している。(藤田沙奈江委員)
 - ・教員の人数減少で負担が生じると思うので、教員のバックアップとなるようなことをしていきたいと思う。(間宮委員)
 - ・ドリルパークや縄跳びカード、マラソンカードは子供を認める機会になる。自己肯定感を高めることにつながると考えられる。(袴田委員)
 - ・オンライン交流は本校とは違う環境の学校が良い。小中の取組も中学校入学の不安解消になる。次の段階への目標をもたせたい。(藤田正治委員)
 - ・東陽中との連携で先輩から学ぶことができる。河輪小が単級になるということは地域のバックアップが必要だと思う。(太田委員)
 - ・ドリルパークで国語の漢字が学習できる。そして文字は訓練で整える。褒めて育たい。(渋谷委員)
 - ・中学生の職場体験は6年生も一緒に見学したらどうか。協働センターにきて、地域に関する話を聞くのも良いと思う。(飯田オブザーバー)
- 意見の交換後、意義なく全員からの承認を得た。

(4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき夢育やらまいかCS加算分について説明があり、全員の承認を得た。

13 その他報告事項等

- ・学校支援コーディネーターより
地域の方が大変協力的で有り難い。子供達のことを思ってくれる方が多い。
- ・令和6年度 第1回学校運営協議会 令和6年5月9日(木) 14:00~16:00